

「生理研の魅力」

生体膜研究部門 関谷 敦志

私は細胞器官研究系生体膜研究部門でお世話になっている博士後期課程1年目の関谷敦志と申します。修士課程まではいわゆる「大学」で3年間研究生活を過ごしてきましたが、より高水準の研究を経験したい、スキルアップを目指したいという思いから生理学研究所の門をたたきました。初めは大学との違いに戸惑うことが多々ありましたが、その生活もはや半年が過ぎ、今は日夜研究に明け暮れています。

私が生理研に来て最初に驚いたことは、研究設備が充実していることです。通常はなかなか触れることができない機器を自分の研究に利用できる、今までアイデアがあっても実践できなかったことにチャレンジできるというのが非常に魅力的でした。そして、充実した研究設備はもちろんですが、世界の最先端で活躍する先生方に直接指導を受けることができるのが総研大の最大の魅力だと思います。普通の大学に比べて学

生数の数が少ないため、教員・スタッフとの距離が非常に近く、濃密な指導を受けることができます。第一線で活躍されている先生方のご指導には一言一言に重みがあり、私自身、日々叱咤激励を受けながら研究手法のみならず、研究者としての姿勢・考え方などさまざまなことを学んでいます。またたかだか半年間の生理研での生活ですが、ここに来てから得たこと・学んだことは計り知れません。また、指導教員の先生のみならず、生理研では授業・セミナーなど頻繁に先生方の講演を聞く機会や交流する機会が頻繁にあります。このような環境は、学生人口の多い一般的な「大学」ではなかなか味わえないと思います。もちろん学生が少ない分、自分と同じ目線に立った仲間が多くないので、気軽に相談できる人が少ないなど時々不安になることがありますが、それを乗り越えるため努力するのも大事な経験だと思います。

生理研での生活は決して楽なものではなく、華やかなものでもありません。しかし、研究者を目指す自分を成長させるためには充分過ぎる程、環境は整っていると私は思います。自分のスキルをもっと伸ばしたい、一段上に挑戦してそれを乗り越えた喜びを感じたいという人は是非、総研大生理科学専攻の門をたたいてみてはいかがでしょうか。生理研には1週間の体験入学という制度がありますので、興味がある方はまずは生理研に来て自分の目で確かめてみてください。そして先生方や先輩方と話してみて何か感じる事ができたら、挑戦してみてください。充実した研究生活を過ごすことができるかもしれません。

